

Grand Canvas：AI品質の未来をともに描く
～ AI 品質マネジメントネットワークキングシンポジウム～

AI品質マネジメントのエコシステム

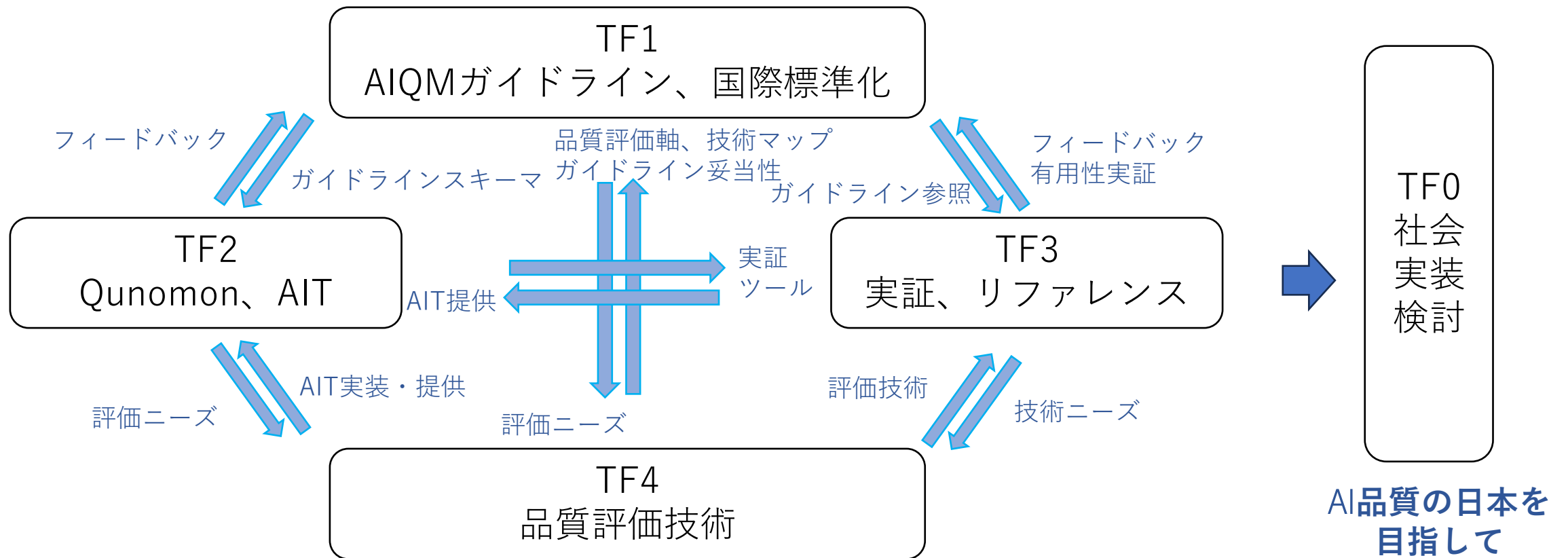
2024年2月28日

妹尾 義樹

標準化オフィサー 知財・標準化推進部 研究企画本部
(兼) デジタルアーキテクチャ研究センター
国立研究開発法人 産業技術総合研究所

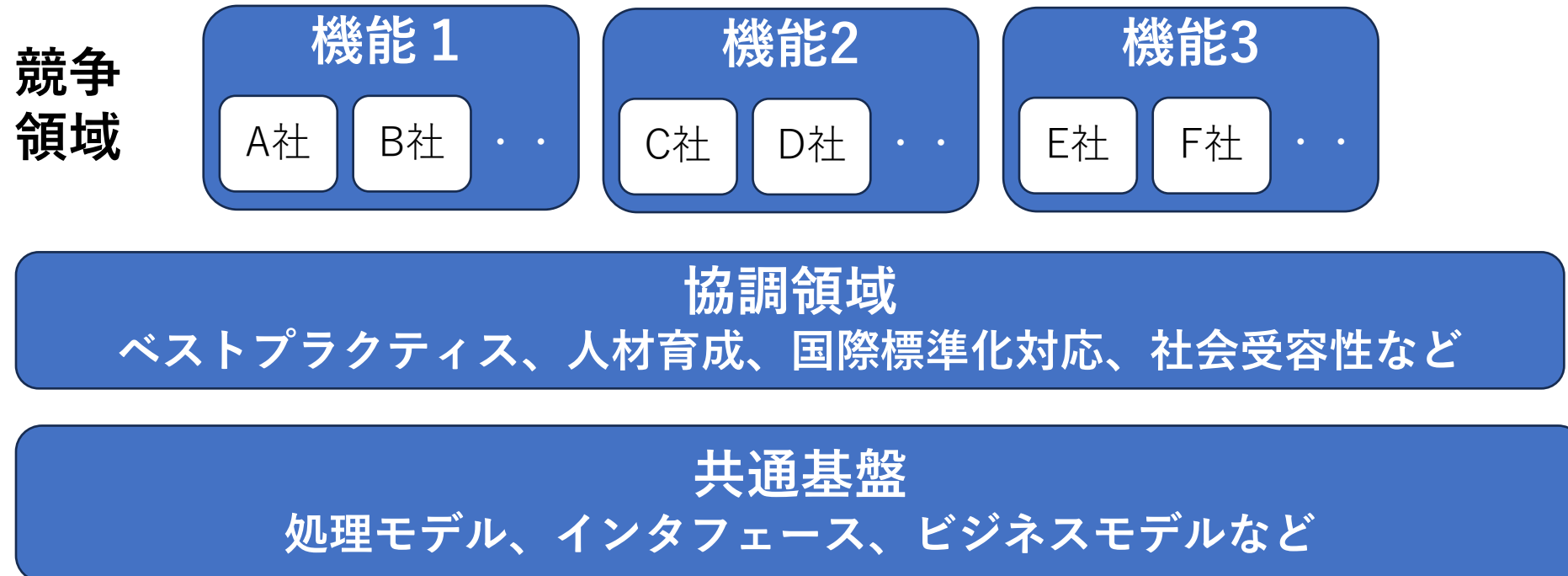
産総研AI品質マネジメントプロジェクト (AIQM)

- NEDO委託事業（人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業、2018年開始）
- 機械学習品質マネジメント検討委員会（有識者会議）傘下に5つのタスクフォースを設置し推進。



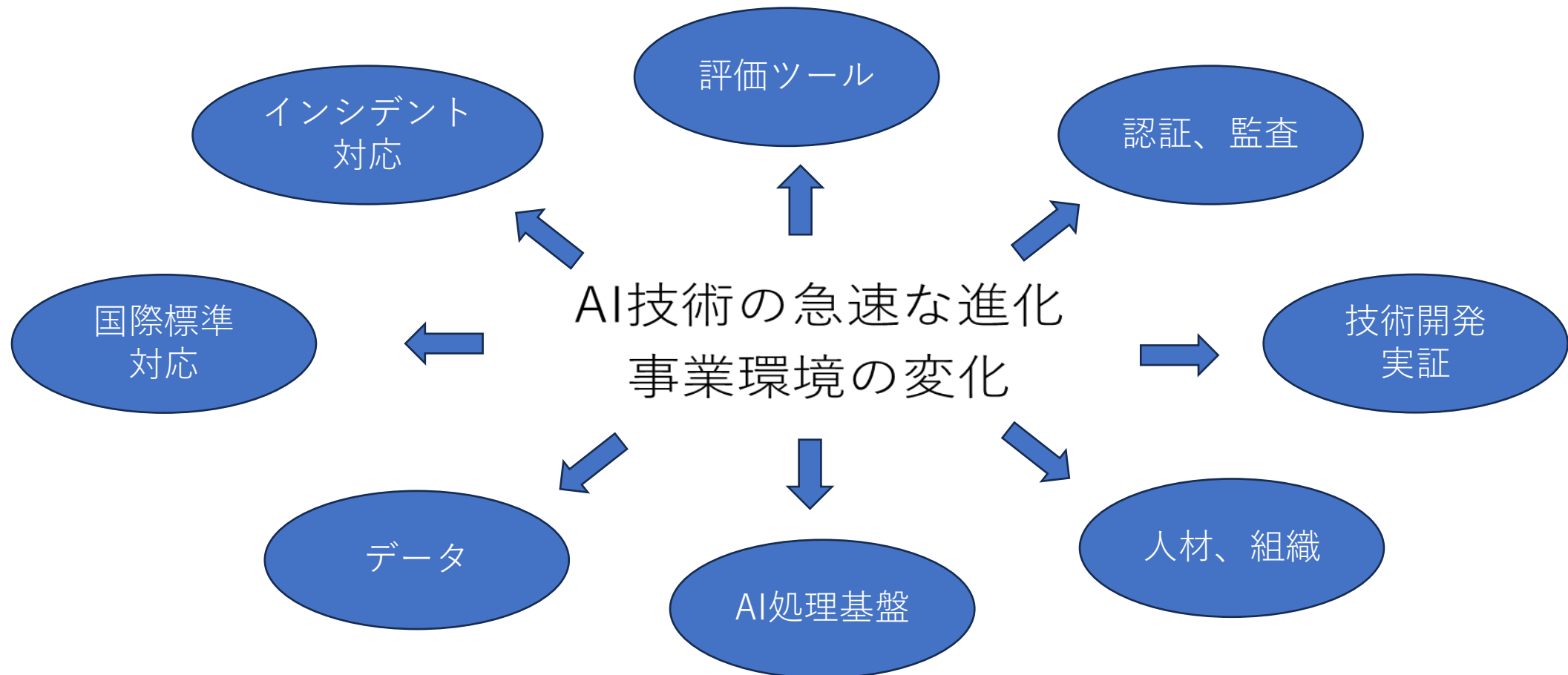
エコシステムとは？

- 複数の集団（企業）が集まって顧客価値提供のシステムを構築
- 1社がすべてを行うのではなく、得意領域にリソースを集中
- 日本では、大企業がすべてをグループ内で行う傾向



AIビジネス（品質管理）における必要な機能

- 個社ですべてまかなうのでは、競争領域に十分なリソースが割けない。また速度で負ける。変化に追従できない。



AI事業における品質管理の課題

■やるべきことが多すぎる、コストがかかる

- 品質管理体制、プロセスの構築。社内ルールの整備。
- 人材育成、教育プログラムの整備。

■ガイドラインの活用が難しい

- どうやってやれば最善なのか？どこまでやればいいのか？手引書は？
- ベストプラクティスの集積と活用が重要。

■急速な変化への対応

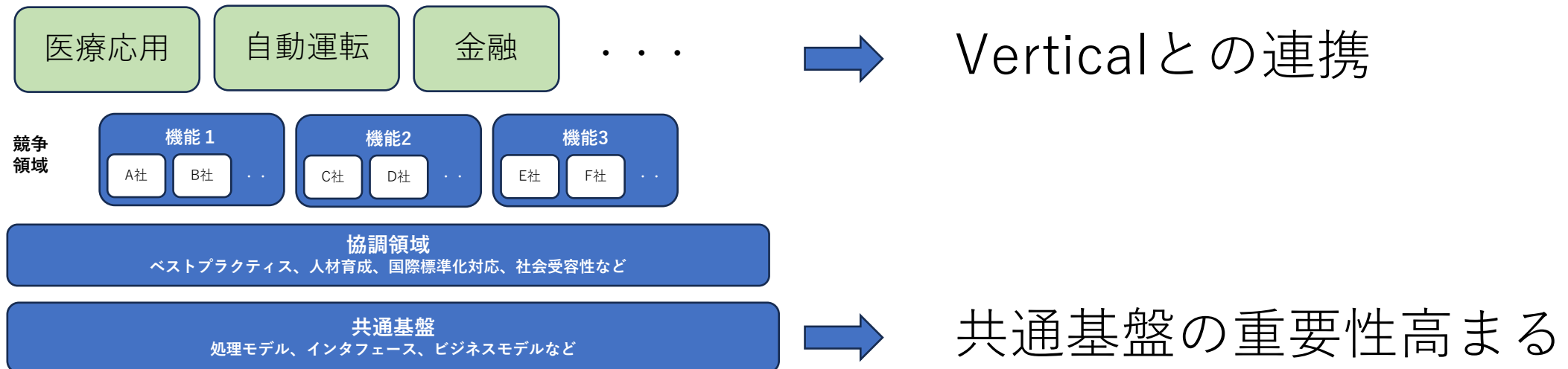
- LLMなどの急激な技術革新への対応。
- 変化の速い国際的ルールへの対応。国際的ルール作りへの参画。

■社会コンセンサスの醸成

- AIに100%を求めるのは難しい。
- 問題が起こるのはやむを得ないが、社会受容性の範囲で収めたい。

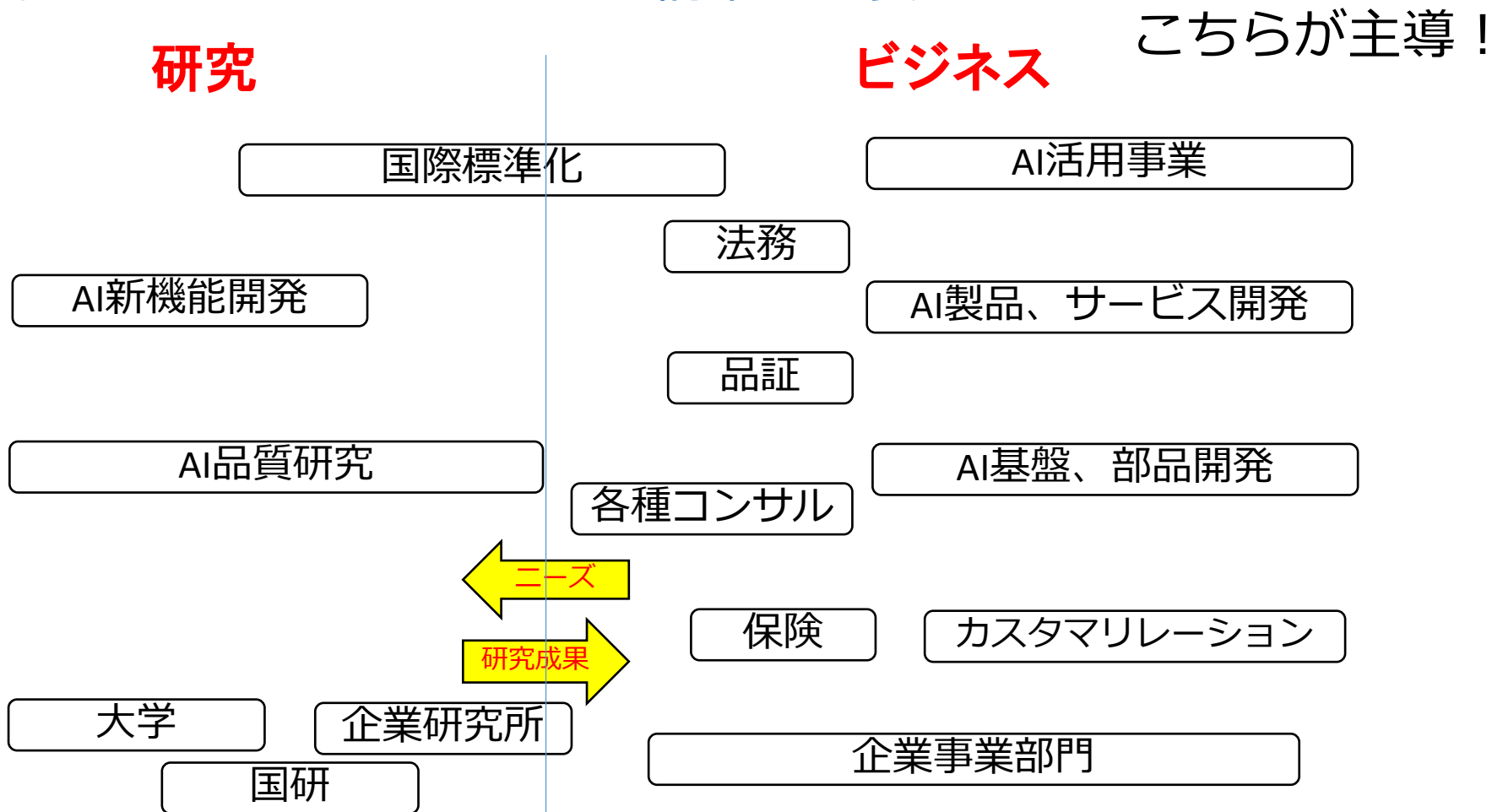
複雑化するサプライチェーンへの対応

- AIシステムは、従来型ITシステムに比べて、サプライチェーンが複雑
 - データ管理、運用中のコンテキストドリフト対応など。
- LLMの登場により、さらに複雑になる可能性が高い
 - 高度な専門性なしに活用可能。新たなプレイヤーの登場。
 - LLMの言語処理機能による複合システムの構築。
- 多様なVertical（応用分野）との連携
 - 国際標準化の舞台ではリエゾンによる検討が始まっている。



研究/ビジネスエコシステム

- ビジネス主導のビジネスニーズに基づいたエコシステムの構築が必須
- 可能な限りシンプルなエコシステム構築が重要



最後に

すべてはグローバル

ISO/IEC
JTC1/SC42

AI Alliance

CEN
CENELEC

NIST
AISI
Consortium

END

ご清聴ありがとうございました